

### **1. 開催日時・出席者等**

- 日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）13:00~14:00
- 場所：つくば研究支援センター（茨城県つくば市）
- Pitch テーマ：大学・研究機関等発の Tech 系スタートアップエコシステムの展望
- 招へい者：別紙参照
- 出席者：平井国務大臣  
石井企画官（科技）  
寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

### **2. 招へい者からの説明**

- 3D 触力覚技術や問診支援、カラー暗視カメラ、電気製品 ODM、iPS 細胞自動作製・遺伝子治療など、研究機関の技術などを元にした、多種多様な Tech 系スタートアップが事業を展開している。
- 国の研究機関も多く集積しており、県や市としても科学技術を社会実装することを目指し、そのための担い手であるスタートアップの可能性を重要視して様々なご支援を行っている。
- いずれのスタートアップも、顧客・資金調達先とも国内に限定せず、グローバル展開も見据えて事業を展開している。

### **3. 質疑応答・議論**

以下の意見・提言があった。

- 様々なリソースがまだ大企業の中に閉じてしまっており、特に有能な人材がスタートアップに来てくれるように、人材の流動化を促進してほしい。その際に課題となるのが給与水準の格差であり、そこを埋める施策があればいいのではないか。また、兼業の推進もその近道となるのではないか。
- 単独の技術ではビジネス展開を進めるには足りないため、様々な研究機関や企業との連携が重要となる。その際に、研究機関側の制度面で連携しづらいケースもあるため、技術やノウハウをうまく活用できるような環境を整えてほしい。
- 遺伝子治療で用いるウイルスベクターが、法律上厳しく扱われている。一律に規制を設けるのではなく、個々の安全性などを基に設定してもらえるとありがたい。また、サン

ドボックス制度などをぜひ活用したい。

- 研究機関発のスタートアップを生み出していくためには、社長となる経営人材を引き合わせる事が重要。研究開発とビジネスとでは常識が異なる。
- 研究機関の知的財産活用については、独占的な実施権付与などの制度が整ってきたところもある。
- 日本と比べて、海外の事業会社や投資会社は判断が早い。他方、日本の企業は、研究機関発の技術がアーリー過ぎて、判断しないケースがある。

(了)

招へい者：

[スタートアップ]

香田 夏雄 株式会社ミライセンス コファウンダー・代表取締役  
祖父江 基史 株式会社ナノルクス 代表取締役社長  
山田 祐輝 株式会社ノエックス 代表取締役社長  
松崎 正晴 ときわバイオ株式会社 代表取締役  
中西 真人 ときわバイオ株式会社 取締役

[支援者]

五十嵐 立青 つくば市長  
宇野 善昌 茨城県副知事  
斎田 陽介 株式会社つくば研究支援センター 代表取締役社長